

旧パーフェクト圧力鍋 点検のポイント

旧パーフェクト圧力鍋 の点検ポイントをご紹介します。メンテナンス時に、以下の点検をお願い致します。

1) ゴムパッキンの点検

鍋本体と上蓋のまわりから漏れがある場合は、ゴムパッキンの劣化や食材が挟まっている事などが考えられます。漏れがある場合は、ゴムパッキンと上蓋や鍋本体の部分に、食材等が挟まっていないかをご確認頂き、食材等がある場合には除去してください。

その後も漏れがある場合はゴムパッキンの交換が必要です。

漏れが無い状態で上蓋開閉時のスライドがかたい場合は、滑り具合の程度にもよりますが、上蓋があかなくなる事があります。サラダ油等の食用油をゴムパッキンの表面に薄く塗ると滑りが良くなりますのでお試しください。



2) 自動調理スタートバルブ(安全バルブ)の点検

この部品が働かずに蒸気が漏れ続けている場合圧力はかかりません。

点検としては、おもり(ステンレスボール)がみえているか確認してください。

もし、おもりが上部(ゴム部品の中)の方に埋まっていたら、上蓋のカバーを外してから部品の上から指で押して、おもりが見える位置に戻してください。

おもりの位置は問題ないのに蒸気漏れが止まらない場合は、食材が部品の中につまんでいることが考えられます。耳かきなどでおもりを外し、綿棒等に洗剤を付け、部品の内部を洗浄してください。その際におもりを無くさないようにご注意ください。

洗浄しても改善されない場合は、部品そのものの劣化が考えられますので、部品交換が必要です。(加圧途中で勢いよく蒸気が放出される場合は部品劣化が考えられます。)

また、おもりが無い場合(無くした場合)も圧力がかかりません。この場合も部品交換が必要になります。



3) 上蓋の取手(蓋用取手)の点検

① ロックのスライド状態の点検

蓋用 取手のロック部分のスライドが不完全な場合、圧力がかかりません。

ロックのスライド操作に異常がないか確認してください。

異常がある場合は修理、または上蓋の取手の部品交換が必要です。

また、ロック操作に異常が見られた場合は、「4) 鍋本体側の長い方の取手(本体用取手)の点検」も行ってください。



② 圧力表示ピン用パッキンの点検

圧力表示ピンの部分に付いている丸いパッキンに亀裂や破れ、穴があいていないか確認します。亀裂や破れ、穴が開いていると、そこから蒸気が漏れて圧力表示ピンが正常に動かなくなることがあります。また、亀裂部分から蒸気が漏れる際、ピーという音がする場合があります。修理としては、圧力表示ピン用パッキンの交換になります。また、圧力表示ピン用パッキンの劣化が進むと、圧力表示ピンの動きが不安定になりますので、その場合も部品交換になります。



③ メインバルブ(取手を外した際に見える丸いゴムの中に丸い金属の部品が付いている部分)の周りへの食材の付着を点検します。

食材などが付いている場合は、ゴムの部品を外さずに(外すと元に戻せなくなります)中性洗剤を付けて小さなブラシなどで洗浄し、流水ですすいでください。その際上蓋部分も同時に洗浄してください。

注意としては、上蓋の取手は絶対に浸け置き洗いはしないでください。部品の隙間から取手の内部に食材が入り、ロック部の作動に影響を及ぼすことがあります。



4) 鍋本体側の長い方の取手(本体用取手)の点検

本体用取手がガス火による焼けの影響で変形している場合、上蓋の取手との噛み合わせ部分の隙間が開きすぎて、ロック操作が固くなったり、不完全な状態になる場合があります。ロックが不完全な場合は、圧力がかからなくなります。この場合、本体用取手の取付けの調整や変形の度合により部品交換が必要になります。



5) 加圧テストの方法

鍋にお水 300cc 程度を入れ、上蓋を閉じ、上蓋の取手のスライドロックをロックして、調理時と同じように加熱します。

自動調理スタートバルブや圧力表示ピンの作動状況、ゴムパッキンから漏れないかどうかの確認を行います。

この加圧テストにて、それぞれの部品が作動し、通常ご使用頂いているように加圧されていることを確認してください。